

2 学期始業式校長講話

校長 岩田 学

長くなった夏休みを、キミはどう過ごしましたか。

私はいつもより少し時間があったので、斜め読みしてあった、『サピエンス全史』を読み返してみました。多くのトピックスの中から、グローバル世界についての考察を紹介します。

筆者ハラリは、ホモサピエンスの歴史を、「自分の種族 vs 他の種族の対立」から、現代の「私たち人類」という認識に至る、普遍的秩序を作り出して来た営みであると定義。とりわけ、他の地域から入ってきた文化が定着し、繁栄と発展を続けたことに注目しています。

例として、ガリア人、カルタゴ人がローマ文化の担い手になったこと。エジプト人、イラン人、ベルベル人が、イスラム文化を発展させたこと。インド人、中国人、アフリカ人が、ヨーロッパ文化を発展させていることを挙げています。

こうした文化の再構成がホモサピエンスの歴史の特徴であり、現在のグローバル世界は、特定の国家・民族によって統治されなかった後期ローマ帝国のように、多民族のエリート層に先導され、共通の文化と共通の利益によって今まとまろうとしていると述べています。

確かに、英語の新聞や雑誌の記事を読むと、起業家・エンジニア・専門家・学者・法律家などが、盛んに新しい世界の秩序を論じ合っています。彼らは一様に、グローバル世界か、自国の国家と民族の利益かで紆余曲折した末に、グローバル世界の構築を志向しているのがここ1、2年の論調です。折しも、日韓関係等について論じている NEWS WEEK などの記事を、是非この視点から読んでみてほしいと思います。

以前の講話で、未来が過去を（正確には過去の価値を）決めるという話をしました。2年生のスタディツアーに参加し、南三陸町の未来に向かう復興の様子を見学することで、私はそのことを再認識して来ました。

言うまでもなく、学校教育は未来を創る営みです。未来とは希望であり、キミが持つ可能性への期待です。次の時代を安心して託すことができるように、高い志を持ち、自分の頭で考え、自分の意志で行動し、周囲と協働して事を成し遂げられる力をつけてほしいと思います。そのために、私自身も、若者が夢や希望や幸福感を持って生きられる社会、生き活きと主体的に学ぶ学校を創ることに励まなくてはなりません。覚悟を新たに、今日を迎えました。

今日から2学期。 勉学の季節に、遅しく学んでほしい。

特に、勝負どころを迎える3年生諸君。

一人ひとりがしっかり夢を掴むよう、心から応援しています。